

調節麻痺薬による屈折検査 (アトロピン)

①目薬をする理由

物を見るとき、目の中では筋肉(毛様体)の緊張が起こり、水晶体を厚くしピントを合わせます。これを『調節』といいます。

特に子どもは、調節を休ませることができないため正確な検査ができません。そこで調節を一時的に休ませる目薬を点眼し、屈折検査をします。

②目薬によって起こる目の状態

- 調節ができないため、物を見たときピントが合わせにくくなり、特に近くが見えにくくなります。
- ひとみ(瞳孔)が大きくなり、光をまぶしく感じます。

※以上の変化は一時的なもので、点眼を中止すれば1～2週間で元に戻ります。

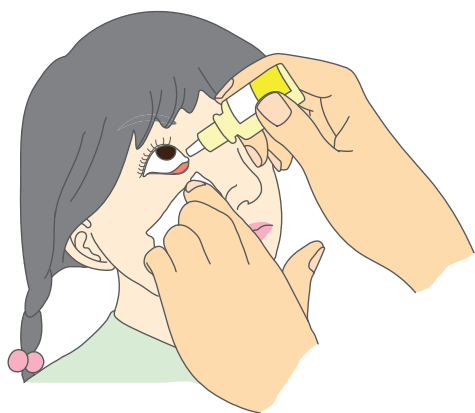
③目薬の使い方

★1日2回、朝 右目・夜 左目 に1滴ずつ7日間点眼してください。

| | 目 | / | / | / | / | / | / | / | (検査日) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|-------|
| 朝 | 右 | — | | | | | | | |
| 夜 | 左 | | | | | | | | — |

★乳幼児では、まれに顔が赤くなったり、発熱することがあります。そのため、点眼後に目頭を1～2分くらい手で押さえ、体に吸収されないようにしてください。

※万が一、上記の症状が発症したら点眼を中止して、下記までご連絡ください。



- 容器の先が目
に触れないよ
うにします
- 指で1～2分
押さえてくだ
さい
- 1滴以上入れ
ないでください



④注意

- 点眼した日から20日間くらいは、まぶしいため水泳・スキーは中止してください。
- 目薬は冷蔵庫で保管してください。
- 目薬は、検査のため上記期間以外、本人以外は絶対に使用しないでください。
- 舐めたり飲んだりしても危険ですので、幼児の手の届かないところに保管してください。
- 使用後の目薬は、来院の際に持参してください。

ご不明な点がありましたら、お気軽にご連絡ください。